

仕事と論語と蕎麦打ちが大好きな月本康寅がお届けする

たんぽぽ通信

◆集客・営業・広告・販促・マーケに役立つビジネスコラム 2016年7月4週号

■集客・営業・広告・販促に役立つ心理マーケティング

反応の良いキャッチコピーを書くためのコツはお手本となるコピーをマネして、自社に応用することです。今回は雑誌、新聞、サイトや書籍タイトル等で見つけたお手本となるキャッチコピーを紹介させて頂きますので、あなたの会社やお店でのコピー作りの参考として下さい。

■『他の○○はもう使えません！』

このキャッチコピーパターンもよく使われます。

「もう他のフライパンは使えません」

「もう他の歯科医院には行けません」

「もう他の印刷会社には頼めません」

といったキャッチコピーです。

もちろんこのパターンのキャッチコピーだけで

資料請求や、問い合わせや申込が発生するわけではありません。

こういったキャッチコピーで興味を引き、そこから本文に掲載されている

既存のお客さまの感想や喜びの声の紹介に誘導します。

そして、できれば感想や喜びの声は、その中に**自社商品やサービスの**

強みや他者との違いに言及しているものを採用します。

そこで、第三者の声を通して商品やサービスの特徴を訴求してもらい、心理学のオーバーハード効果を狙います。

その後で商品やサービスの機能の紹介を行い、価格を表示し、

資料請求や申し込み、あるいは来店につなげる・・・といった広告でのストーリー構成になります。

広告やホームページの文章はキャッチコピーから

資料請求や、問い合わせや申込へと誘導する流れが必要です。



●本記事は契約のうえ、ビジネス心理学講師・酒井としうさんが寄稿しています。



私の
約束

リフォームの提案は、お任せください！
知識と智恵と豊富な経験で、必ずあなたの悩みを
スパリ 解決します。

月本建設（株）代表取締役 **月本康寅**
電話 / 086-275-0676
FAX / 086-275-5267
メール tsukimoto-cop@wind.ocn.ne.jp

ホームページ

月本建設

検索

4つの資格のプロ
だから安心です！

1級建築士

1級建築施工管理技士

1級土木施工管理技士

宅地建物取引士

『頼んで良かった』(^v^) と言われる会社です！

コラムでコラボ

H.28 7月号(4)発行:一級建築士 月本康寅



自分でできるメディカルチェック

美肌と肩こりのツボ

鎖骨の両端から中間地点。そこは「欠盆(けつぼん)」といいます。
押し方はあまり強すぎず、指を4本使ってゆっくり押しては離しを1分程度繰り返しましょう。骨に沿って、背中側へ指を滑らすようなイメージで。
くれぐれも指一本で強く押しそぎないようにしてください。
「欠盆(けつぼん)」は美容にいいといわれています。
それはリンパが関係しているからです。
鎖骨の上側のくぼんでいる部分は、リンパマッサージの場所でもあります。
リンパを流すようにマッサージすることは、体内の老廃物を排出する効果があるのです。
「欠盆(けつぼん)」を押せば、顔のまわりの血液やリンパ液を促進させ、代謝を良くします。
細胞のすみずみにまで栄養素や酸素が行きわたり美肌効果が期待できるわけです。
もちろん肩こりの効能もありますが、
美容効果もあるとはなんて都合のいいツボなのでしょう。
「欠盆(けつぼん)」ツボ、ぜひお試しください。



「梅雨時期の話」

快眠のために最適とされる環境は「気温 26 度以下」「湿度 50~60%」。
梅雨の時期特有の寝苦しさは、暑さと 80%を超える湿度の高さが関係しています。
ここではエアコンの活用をしましょう！冷房で室温を 26 度前後に保ちます。つけっぱなしにすると体を冷やしてしまう原因になるので、タイマー機能を使って可動時間を調節することも大切です。
また、除湿機能を使って温度調整も行ってみて下さい。
体の中に余分な水分の溜まりやすい梅雨の時期は、水分や老廃物が排出されないため、むくみや食欲不振といった不調に繋がります。運動は簡単なストレッチと筋トレがおすすめです。
普段そういう運動をされない方はぜひ 1 日 10 分からでもいいので実施してみることを推奨します。運動のタイミングは、体の温まった入浴後が最も効果的です。自分の負担にならない範囲で挑戦してみて下さい。
また、運動を行う前には水分補給を行うと得られる効果が高まります。水分を取り入れることで基礎代謝が上がります。その結果、水分の排出や体脂肪の燃焼が効率良く行われることに繋がります。

■ほぐゆる庵～relax&conditioning ■

「移動巡回型施術院 ほぐゆる庵は出張専門の整体院です。痛みの原因から解決します！！」
一度ご相談ください。

TEL : 080-6337-3315

オフィス ニコスコ 高野よしくに



最近の犯罪状況（その145）

3階建て民家で、住人の男性から「泥棒に入られた」と 110番通報があった。
男性は2階の室内を物色していた
男に気づいてもみ合いになり、顔を殴られ軽傷。男は自転車で逃走した。
かばんなどにあつた現金計約 20 万円が見当たらぬといい、強盗致傷事件とみて捜査している。家中で異変を感じたら絶対に中には入らないで 110 番してください。

.....
防犯カメラ・セキュリティ
システム設計・施工・保守
TEL : 0120-46-9406
株式会社シールド
専務取締役 本多高明



やるべきことをやることが大切、結果は天に預ける

渋沢栄一と啓蒙思想②

何があろうと、そこには安心立命がある。・・・この考え方には、江戸時代の教養ある武士の生き方だったように思われる。
それが非常にわかりやすく描かれているのが、岡本継堂の『半七捕物帳』である。『半七捕物帳』が数多の「捕物帳」と違うところは、本物の資料に基づいて書かれているところにある。したがって、江戸末期の情景や風俗が、信用できる形で描かれていると考えられる。その『半七捕物帳』に、たまに武士の出てくる場面がある。注目すべきは、そこに出てくる武士の考え方、感じ方というのが町人とは明らかに違っているという点である。
たとえば、『半七捕物帳』の第一巻の最初に「お文の魂」という幽霊の話がある。それを読むと、町人あるいは武家の女たちは幽霊を怖がるのだが、武士は全く恐れていない。武士というのはまさに孔子のいうところの「怪・力・乱・神を語らず」で、先祖の御靈を尊敬することはあっても、いわゆる宗教的、神秘的な考え方からは、抜け出していた。そこには武士の特長があるのである。これはすなわち、一種の啓蒙思想であると私は思っている。

■「渋沢栄一 人生百訓 / 真の成功にいたる道」より抜粋